

## 10 乳頭の薬剤浸漬による乳房炎予防効果

(畜試 乳牛部)

乳房炎の予防に乳頭浸漬による方法が、簡便で効果も高く実用性のあることを確かめた。

(乳房炎陽性率 実施前 52% 実施2年 25.5%)

### (1) 背景と特徴

乳質の向上が酪農にとって重要であるが、そのためにも乳房炎の発生予防には多くの指導がなされている。乳房炎予防には、毎搾乳時の作業が必要であり、又短期で効果が見られないため、日常作業化が容易でない。組立試験において、最も簡易で効果が高いといわれている乳頭薬剤浸漬(乳頭ディッピング)を用い、実証的に実施し効果が認められたので参考に供す。

### (2) 技術内容

- 1) 搾乳後直ちに乳房炎予防乳頭浸漬剤(ディッピング液)に乳頭をひたしたが、実施前には乳房炎(PLテスト陽性)陽性率が52%であったが、実施後2年で25.5%に半減した。
- 2) ディッピングは単なるカップによっても可能であるが、ビンとカップがセットされた、専用容器を用いる方が薬剤のロスが少ない。
- 3) 薬剤の必要量はロスを含んで搾乳牛1頭年間1ℓ程度を見込めば良い。

### (3) 指導上の留意点

- 1) 乳頭ディッピングは乳房炎の感染予防手段であり、治療効果はないので、発症牛の治療、慢性乳房炎牛の淘汰は必要である。
- 2) ディッピングの効果は100%でなく、他の感染予防手段 ①手指の消毒 ②乳房の消毒剤洗浄 ③テートカップの1頭毎消毒等と合わせ実施することが、より効果的である。
- 3) ディッピングの効果は短期では見られず、長期実施により、徐々に発現するため根気よく2～3年後の結果を期待して実施する必要がある。
- 4) ディッピング用薬剤はヨード系薬剤とクロルヘキシジン系薬剤があるが、今回使用したのはクロルヘキシジン系薬剤である。
- 5) ディッピング実施当初は牛が驚いてけることもあるが、特に神経質な牛を除き、数日で慣れるので心配ない。

### (4) 試験成績の概要

#### 1) 試験課題名

寒冷地における草地型酪農専業経営実用化技術組立試験

2) 試験年次および場所

昭和51年～55年 岩手畜試

3) 試験方法

組立試験供成牛中全搾乳牛に搾乳後毎回全分房にクロルヘキシジン系ディッピング液でディッピングし(54～55年度)、月1回PLテスターで乳房炎検査を実施し、陽性率の推移を調査した。

4) 試験結果・概要

PLテスターによる乳房炎検査の結果では、ディッピングを実施しなかった52年、53年度はそれぞれ頭数陽性率で41.2%、52%であったが、ディッピング実施後は54年度35.5%、55年度25.5%と減少傾向が見られた。

5) 参考資料

昭和52～55年岩手畜試成績概要書

畜産の研究31巻3号

(5) 主要成果の具体的図表

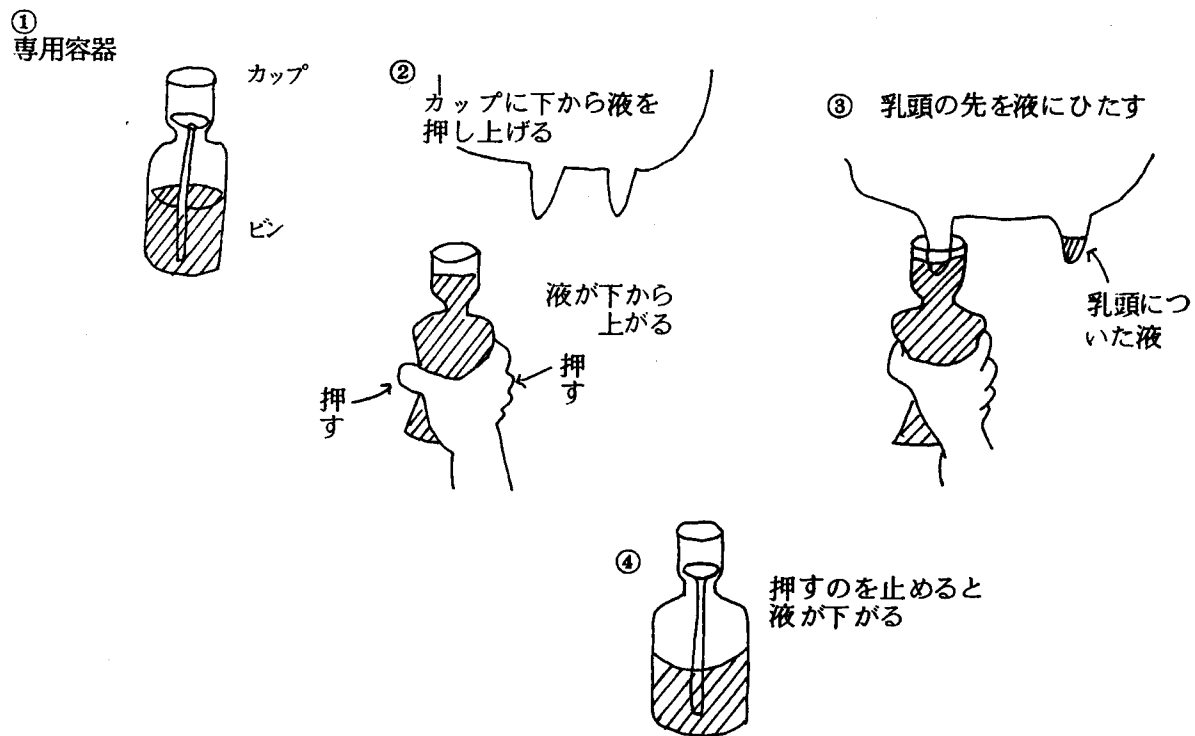
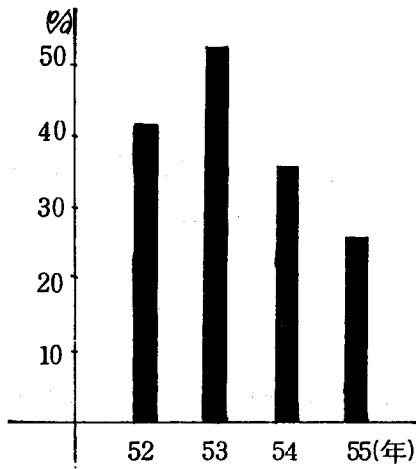
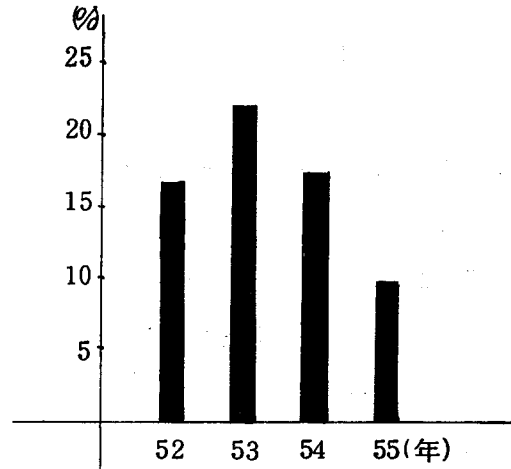


図1 ディッピング方法



デイッピング ← テートコート  
 なし → デイッピング

図2 乳房炎(PLテスト)陽性率年次変動(頭)



デイッピング ← テートコート  
 なし → デイッピング

図3 乳房炎(PLテスト)陽性率年次変動(分房)

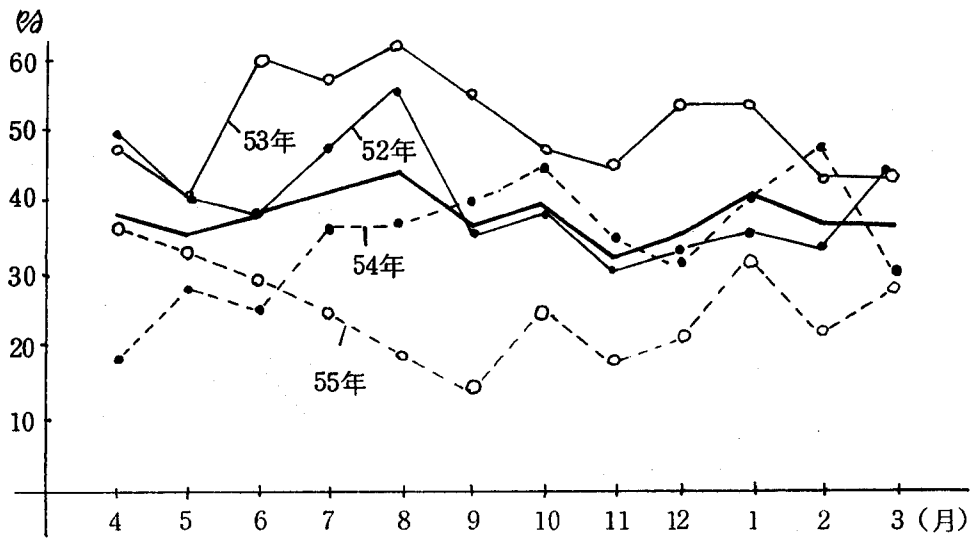


図4 乳房炎(PLテスト)陽性率(頭)

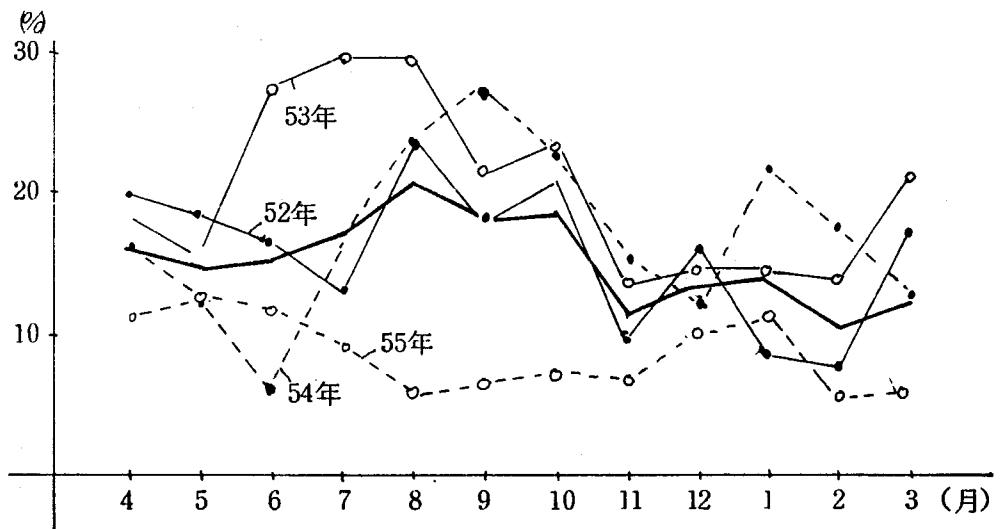


図5 乳房炎(PLテスト)陽性率(分房)